

2019年11月20日

かまぼこの輸出

神戸港の全国シェアは
2018年 数量・金額とも第1位!!



神戸税関
わたしのまちの National Gate

1 はじめに

そのまま食べてもよし、煮てもよし、焼いてもよしの万能食材のひとつに、かまぼこが挙げられます。

「かまぼこ」と言っても、板付きのかまぼこからちくわ、はんぺん、カニ風味かまぼこなど様々な種類があり、「かまぼこ」は魚のすり身を加工した練り製品の総称になります。

私たち日本人にとって「かまぼこ」は、日常の食卓やお弁当などに登場する、非常に身近な食品であるとともに、お正月のおせち料理やお祝いの席を彩る料理にも欠かせない日本の伝統食品でもありますね。



かまぼこのルーツを探ってみると、今から約千年前の平安時代、1115年の古文書にかまぼこ製品が初めて登場し、当時の祝宴の膳の図にかまぼこが描かれています。この頃のかまぼこは現在のちくわに近い形をしたものでした。全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会はこの1115年にちなみ、11月15日を「かまぼこの日」としました。(1983年制定)

また、昔は11月15日の七五三のお祝い料理に紅白のかまぼこを用意する習慣があったことから、七五三とかまぼこの関係からも11月15日を「かまぼこの日」としています。(出所「日本かまぼこ協会」HP)

そんな平安時代から食されているかまぼこの輸出が近年増加傾向にあります。今回の特集は、日本の伝統食品である「かまぼこ」の輸出を取り上げました。

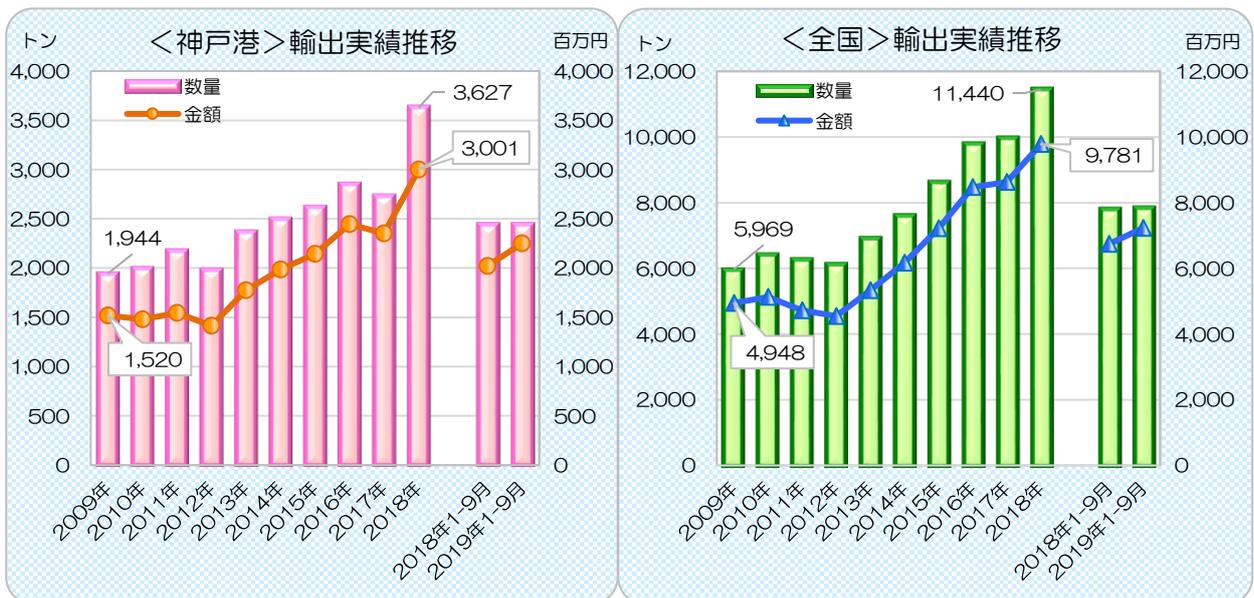
注) 本稿の「かまぼこ」は、輸出統計品目番号1604.20-190「かまぼこその他のねり製品」を指します。

2 輸出実績推移

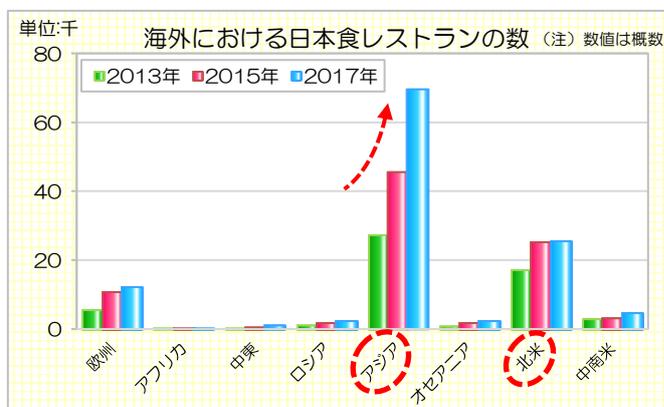
かまぼこの2018年の輸出実績は、以下のとおりです。

10年間で、神戸港・全国ともに2倍近くに増加！

神戸港 数量 3,627トン（対前年比132.8%）、金額 30億100万円（同127.6%）
 （2009年比 数量186.6%、金額197.5%）
 全国 数量 11,440トン（対前年比114.9%）、金額 97億8,100万円（同113.4%）
 （2009年比 数量191.7%、金額197.7%）



こうした増加の要因については為替の影響も考えられますが、世界的な健康志向の高まりを背景に水産品全般に健康に良いイメージが定着してきていること、カニ風味かまぼこの認知度の向上や、日本のかまぼこの品質の高さなどから増加につながったのではないかと業界ではみています。また、日本食レストランが増加したことも増加要因のひとつと考えられています。



(出所)農林水産省「海外日本食レストラン数の調査結果の公表について」

農林水産省によると、海外における日本食レストランの数は、2006年の約24,000店から2017年には約118,000店と5倍近くに増加しています。さらに、地域別にみると左記グラフのとおりアジアの伸びが大きく、2013年の約27,000店から2017年には約69,300店と約3倍に増加していることがわかります。2番目に数が多い北米は、2013年の約17,000店から2017年には約25,300店と5割近く増加しています。

3 港別輸出実績

港別の輸出実績を見ると、年によっては大阪港がシェア第1位になることもありますが、

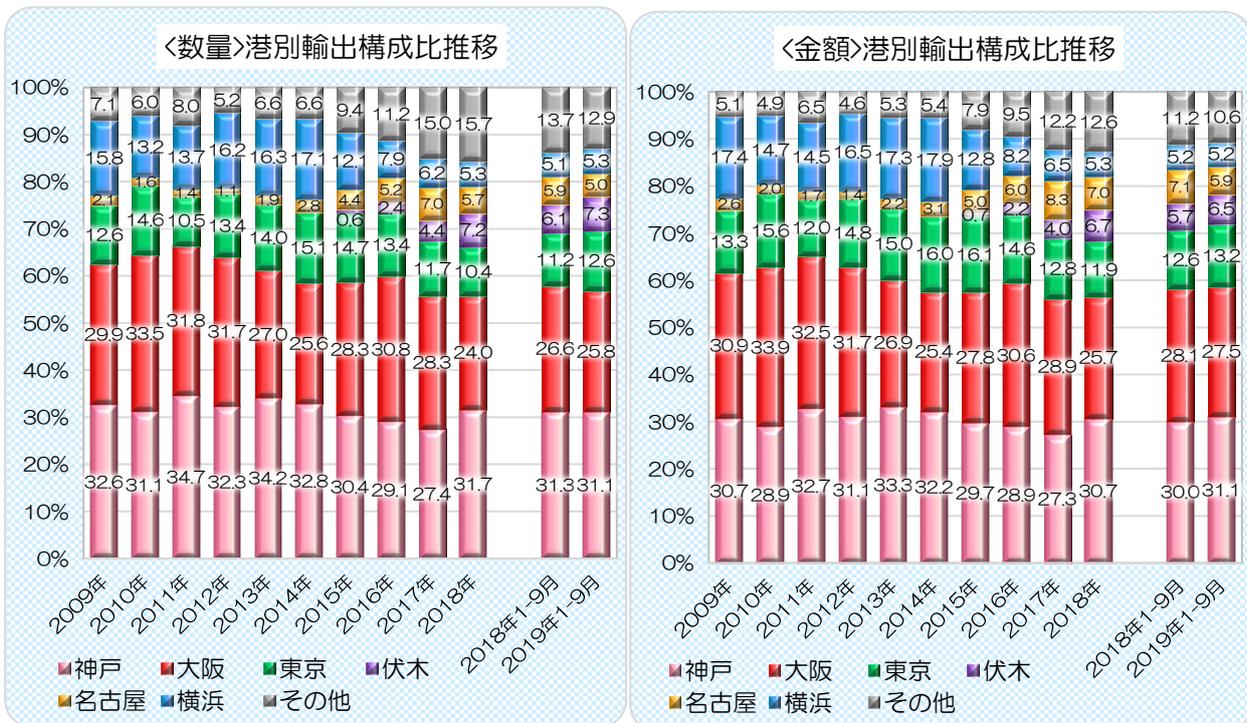
2018年は

神戸港が シェア 第1位 (数量(31.7%)、金額(30.7%)とも)

となりました。また、2019年の9月までの累計においても、

神戸港が シェア 第1位 (数量(31.1%)、金額(31.1%)とも)

となりました。



2017年 都道府県別かまぼこ類生産量

	都道府県	生産量 (トン)	前年比	構成比
1	新潟	48,709	96.4%	11.0%
2	兵庫	46,360	102.4%	10.4%
3	宮城	34,425	100.7%	7.8%
4	山口	33,989	99.6%	7.7%
5	千葉	30,843	98.9%	6.9%
6	静岡	26,419	97.5%	5.9%
7	北海道	18,868	97.2%	4.2%
8	岡山	17,825	104.4%	4.0%
9	石川	16,644	103.0%	3.7%
10	愛知	13,531	72.7%	3.0%

(出所) 農林水産省「水産加工統計調査」

神戸港周辺には、かまぼこを含む水産加工品を扱う貿易商社が多く所在しているため、会社の所在地から近い神戸港は輸送に便利であることや、外国貿易船の定期航路が充実しているなどの理由から神戸港が利用されています。

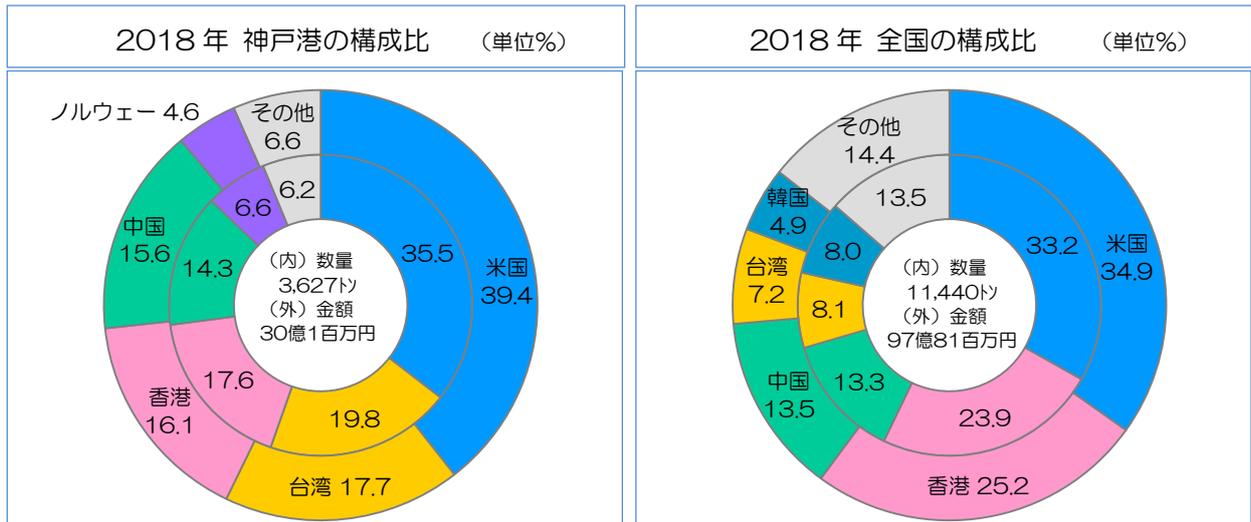
また、左記の農林水産省による2017年都道府県別のかまぼこ類生産量では、兵庫県は2番目になります。神戸税関の管轄である岡山県は8番目に多く、両県とも2017年の対前年比が増加していることが分かります。

神戸港は、かまぼこの大きな生産地を後背地に持っていることも港別シェア1位の理由に挙げられるでしょう。

4 国・地域別輸出実績

2018年の国・地域別輸出実績の数量と金額の構成は、下記グラフのとおりとなりました。

神戸港は、 **第1位 米国**、**第2位 台湾**、**第3位 香港**
 全国では、 **第1位 米国**、**第2位 香港**、**第3位 中国**



業界によると、輸出されたかまぼこは、現地にあるレストランに卸されたり、スーパーや百貨店などで販売されています。輸出されているのは、カニ風味かまぼこやキャラクターかまぼこ、ちくわ、はんぺん、おでんの具材など様々です。年末には干支の入ったかまぼこが輸出されることもあるそうです。

神戸港と全国ともに第1位の米国では、カニ風味かまぼこをほぐしてサラダとして食べたり、そのまま又はほぐしたカニ風味かまぼこに衣をつけて天ぷらにするなどして食されているそうです。

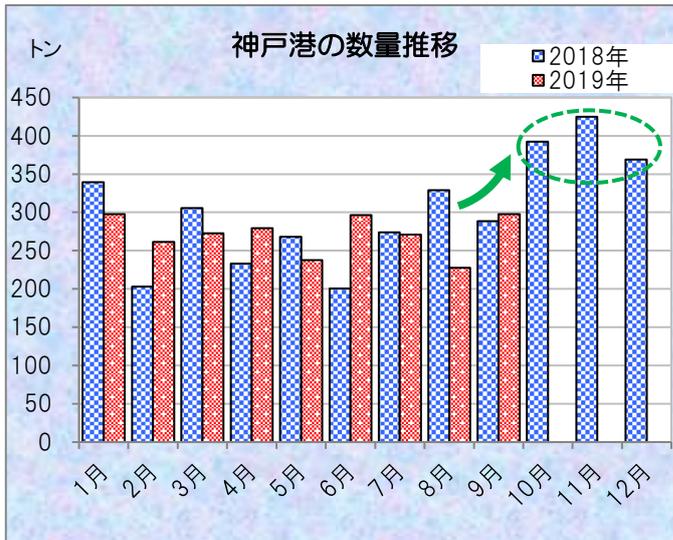
神戸港で第2位の台湾では、鍋物用の具材としてカニ風味かまぼこが消費されることが多いそうです。日本のカニ風味かまぼこは長時間煮込んでも煮崩れしないようにメーカーが工夫を凝らしているため、味も落ちることなく美味しく食べられるということで人気があるとのこと。また、台湾では塩味が薄めの関西のかまぼこメーカーの味が気に入られているということもあり、神戸港から輸出される台湾の構成比は全国に比べて高くなっています。

香港ではカニ風味かまぼこがサラダやおやつとしても食べられています。寒くなると火鍋用としての消費が多いとのこと。また、かまぼこを斜めに切り、棒を刺し火鍋で食することもあるそうです。

中国の日本食レストランでは主に中国人が来店し、日本と同様の食べ方をしますが、中国レストランでは主に火鍋に入れて食されているとのこと。

ノルウェーではカニ風味かまぼこをオープンサンドイッチの具材にしたり、そのままサラダとして現地の人に食されているそうです。

5 おわりに



これから日本では寒さが一段と増し、温かい鍋料理やおでんが美味しい季節に向かいます。

東南アジア諸国でも外食需要の増える旧正月に向けて、10月頃から鍋用具材として輸出が増える傾向にあります。

海外生産も行われているかまぼこは、日本産に比べて安価な価格で販売されていますが、鍋で煮込み過ぎると味が落ちてしまったり、煮崩れするなどのデメリットもあるそうです。

業界によると、原料となる魚のすり身にも様々なグレードがあり、日本のかまぼこはグレードの高いすり身を原料として製造しているそうです。原材料からこだわって製造しているので食感がよく、歯ごたえもあり、味が良いなど品質面で優れているため、多少価格が高くても日本産のものは人気が高いとのこと。

近年のすり身の不足や原材料費の高騰など業界が抱える問題はあるものの、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけに、日本を訪れる外国人客が日本の美味しい食品に触れることによって、日本食のさらなるマーケットの広がりとともに日本の伝統食品であるかまぼこの輸出が今後も伸びていくことを業界では期待しているそうです。



本資料を転載するときは「神戸税関」の資料による旨を注記して下さい。

なお、本資料のお問合せは、

神戸税関調査部調査統計課 TEL (078) 333-3065

「神戸税関ホームページ」のアドレス <http://www.customs.go.jp/kobe/>

(数量単位:トン、金額単位:百万円)

かまぼこの輸出数値表

○輸出実績推移

年	神戸港						全国			
	数量			金額			数量		金額	
	前年比	全国比		前年比	全国比	前年比	前年比			
2009年	1,944	81.9%	32.6%	1,520	84.4%	30.7%	5,969	85.5%	4,948	88.8%
2010年	1,998	102.7%	31.1%	1,480	97.4%	28.9%	6,425	107.6%	5,129	103.7%
2011年	2,176	108.9%	34.7%	1,545	104.4%	32.7%	6,279	97.7%	4,721	92.0%
2012年	1,982	91.1%	32.3%	1,414	91.5%	31.1%	6,126	97.6%	4,549	96.3%
2013年	2,367	119.4%	34.2%	1,775	125.5%	33.3%	6,917	112.9%	5,334	117.3%
2014年	2,497	105.5%	32.8%	1,984	111.8%	32.2%	7,609	110.0%	6,165	115.6%
2015年	2,617	104.8%	30.4%	2,146	108.1%	29.7%	8,616	113.2%	7,214	117.0%
2016年	2,851	108.9%	29.1%	2,446	114.0%	28.9%	9,789	113.6%	8,475	117.5%
2017年	2,732	95.8%	27.4%	2,352	96.2%	27.3%	9,957	101.7%	8,628	101.8%
2018年	3,627	132.8%	31.7%	3,001	127.6%	30.7%	11,440	114.9%	9,781	113.4%
2018年1-9月	2,441	134.0%	31.3%	2,022	126.9%	30.0%	7,807	115.7%	6,742	114.3%
2019年1-9月	2,442	100.0%	31.1%	2,252	111.4%	31.1%	7,846	100.5%	7,233	107.3%

○港別数量実績推移

数量	全国	神戸		大阪		東京		伏木		名古屋		横浜		その他	
		全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比		
2009年	5,969	1,944	32.6%	1,787	29.9%	751	12.6%	—	—	124	2.1%	940	15.8%	422	7.1%
2010年	6,425	1,998	31.1%	2,149	33.5%	941	14.6%	—	—	106	1.6%	847	13.2%	384	6.0%
2011年	6,279	2,176	34.7%	1,996	31.8%	661	10.5%	—	—	86	1.4%	858	13.7%	502	8.0%
2012年	6,126	1,982	32.3%	1,939	31.7%	824	13.4%	—	—	70	1.1%	991	16.2%	320	5.2%
2013年	6,917	2,367	34.2%	1,865	27.0%	968	14.0%	—	—	132	1.9%	1,128	16.3%	458	6.6%
2014年	7,609	2,497	32.8%	1,947	25.6%	1,151	15.1%	—	—	211	2.8%	1,300	17.1%	503	6.6%
2015年	8,616	2,617	30.4%	2,438	28.3%	1,271	14.7%	56	0.6%	381	4.4%	1,041	12.1%	814	9.4%
2016年	9,789	2,851	29.1%	3,012	30.8%	1,310	13.4%	230	2.4%	513	5.2%	777	7.9%	1,096	11.2%
2017年	9,957	2,732	27.4%	2,821	28.3%	1,162	11.7%	437	4.4%	694	7.0%	619	6.2%	1,492	15.0%
2018年	11,440	3,627	31.7%	2,751	24.0%	1,189	10.4%	820	7.2%	657	5.7%	602	5.3%	1,794	15.7%
2018年1-9月	7,807	2,441	31.3%	2,077	26.6%	877	11.2%	480	6.1%	458	5.9%	401	5.1%	1,073	13.7%
2019年1-9月	7,846	2,442	31.1%	2,021	25.8%	989	12.6%	576	7.3%	389	5.0%	419	5.3%	1,009	12.9%

○港別金額実績推移

金額	全国	神戸		大阪		東京		伏木		名古屋		横浜		その他	
		全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比		
2009年	4,948	1,520	30.7%	1,526	30.9%	660	13.3%	—	—	127	2.6%	860	17.4%	255	5.1%
2010年	5,129	1,480	28.9%	1,741	33.9%	799	15.6%	—	—	102	2.0%	755	14.7%	253	4.9%
2011年	4,721	1,545	32.7%	1,534	32.5%	565	12.0%	—	—	82	1.7%	687	14.5%	309	6.5%
2012年	4,549	1,414	31.1%	1,440	31.7%	671	14.8%	—	—	65	1.4%	750	16.5%	209	4.6%
2013年	5,334	1,775	33.3%	1,436	26.9%	800	15.0%	—	—	116	2.2%	922	17.3%	285	5.3%
2014年	6,165	1,984	32.2%	1,569	25.4%	984	16.0%	—	—	192	3.1%	1,104	17.9%	332	5.4%
2015年	7,214	2,146	29.7%	2,003	27.8%	1,164	16.1%	47	0.7%	361	5.0%	925	12.8%	568	7.9%
2016年	8,475	2,446	28.9%	2,595	30.6%	1,240	14.6%	184	2.2%	510	6.0%	692	8.2%	808	9.5%
2017年	8,628	2,352	27.3%	2,490	28.9%	1,109	12.8%	349	4.0%	712	8.3%	560	6.5%	1,056	12.2%
2018年	9,781	3,001	30.7%	2,518	25.7%	1,162	11.9%	658	6.7%	687	7.0%	518	5.3%	1,236	12.6%
2018年1-9月	6,742	2,022	30.0%	1,895	28.1%	851	12.6%	386	5.7%	477	7.1%	354	5.2%	756	11.2%
2019年1-9月	7,233	2,252	31.1%	1,989	27.5%	958	13.2%	467	6.5%	424	5.9%	376	5.2%	768	10.6%

○国・地域別輸出実績

国・地域名	神戸港			
	数量		金額	
	2018年	構成比	2018年	構成比
全世界	3,627	100.0%	3,001	100.0%
米国	1,288	35.5%	1,183	39.4%
台湾	720	19.8%	532	17.7%
香港	637	17.6%	484	16.1%
中国	518	14.3%	467	15.6%
ノルウェー	240	6.6%	137	4.6%
その他	225	6.2%	197	6.6%

国・地域名	全国			
	数量		金額	
	2018年	構成比	2018年	構成比
全世界	11,440	100.0%	9,781	100.0%
米国	3,798	33.2%	3,410	34.9%
香港	2,736	23.9%	2,469	25.2%
中国	1,523	13.3%	1,321	13.5%
台湾	923	8.1%	700	7.2%
韓国	911	8.0%	475	4.9%
その他	1,550	13.5%	1,406	14.4%